

**2年目多重課題演習—教育の立場から**

7月下旬に、2年目看護職対象の多重課題研修を見学させていただきました。先行文献では、1年目対象の多重課題研修を実施している施設が主流で、2年目対象の場合、どのような研修効果や意義があるのか興味深く参加させていただきました。研修は、臨床で遭遇する多重課題場面が緻密に設定されており、参加者による迫真のロールプレイから、グループ討議まで非常に濃厚な構成でした。各場面では、どう患者を観察・判断し、他のメンバーの状況を考慮したうえで、誰に報告・依頼するのか、自分が行うのか、参加者は戸惑いながらも真剣に実践し、自己評価・他者評価を通して、学びを深めていました。終了時点では、参加者は、アセスメントのための知識不足やタイムリーな観察・判断の必要性と他の医療者との協働のタイミングの難しさを、2年目の今改めて実感しているようでした。2年目は、主体的に、患者への看護の責任を持って、ケアを展開できることが期待される時期であるとは思いますが、できなかったことは学びの機会です。焦ることなく着実に、学びを積み上げてほしいと思います。また、研修担当者の方には、2年目の多重課題研修の意義や効果を言語化し、北大からの発信を期待します。



北海道大学保健科学研究院
基礎看護学分野
矢野 理香 先生

2年目多重課題演習

7月11日～28日の期間に、2年目の多重課題演習を行いました。昨年度、新卒者の多重課題演習を行い、2年目(病棟・ICU)対象は、初の企画です。フィジカルアセスメントや救急場面も盛り込みレベルアップした多重課題に対応する演習と、グループワークを行いました。昨年度末に研修を受けた心肺蘇生法も忘れてしまっている研修生も多く、「フィジカルアセスメントの必要性がわかった。知識と根拠が必要」と学習の課題や、「先を見越して、予測・アセスメントし準備していく」「積極的に研修に参加したり、振り返りをし、先輩の助言を得ながら救急場面への対応を学んでいく」など課題が挙げられました。

**部署内企画～手術部2年目多重課題演習**

8月3・4日に手術部の企画で、多重課題演習が行われ、キャリア支援室もサポートしました。臨場感あふれる研修で、医師との協同の中、安全・安楽を考えながら、優先順位やコミュニケーションについて考えられていました



山本・水澤副師長は、2年目の成長が分かった。企画してよかったと話されました

2年目・3年目研修

6月29日～30日・7月5日～6日の2回に分かれて2年目研修、7月20日～22日に3年目研修が行われ、キャリア支援室も助言者やパネルディスカッションの司会などで参加しました。2年目研修は看護過程についての課題を、3年目研修はKJ法などを行い、3年目の果たす役割について考え、自分達の課題を見出しました。OJTの中で、支援を受け課題に取り組んでいきます

**プリセプター研修(継続)**

8月1日にプリセプター研修(継続)が行われました。保健科学研究院の宮島直子先生より「新人看護職員の成長過程におけるメンタルサポート」の講義があり、仲間を理解するという内容で、クリッカーを用い、質問に対し回答したものが、その場でスクリーンに映し出され、現在の悩みや思いを共有しあう事ができました。午後はグループワークで、自己の課題を明らかにしました。

**新卒者技術研修「経管栄養法」「ドレーン管理」**

8月6日、猛暑の中、技術研修があり、12項目の研修が終了しました。今回の「経管栄養法」「ドレーン管理」は新人研修プログラムの中で目標が明確になり、復活した項目です。経管栄養法では、シミュレーションモデルを利用し、胃チューブの挿入も経験しました。

